

living will

リビングウィル

【自分が受ける医療の意思表示】

リビングウィルとは・・・

回復の見込みがない終末期に入り、生命の維持に必要な医療や処置を行わなければ、比較的短期間（数週間から半年程度）で死に至る状態になった際に、どのような医療やケアを望むかをあらかじめ書面で示しておく「生前の意思表示」のことです。

ご自身の気持ち伝えられない時などに価値観を尊重した医療やケアを受けるための大切な意思決定の参考となるものです。

※リビングウィルに法的な拘束はありません。

ご自身の希望を明確にするためにも、ご家族や信頼できる方々と十分に話し合い、その意思を文書としてまとめ、大切に保管しましょう。

◆終末期をどこで過ごしたいですか

<input type="checkbox"/> 自宅	<input type="checkbox"/> 病院	<input type="checkbox"/> 施設	<input type="checkbox"/> 病状に応じて	<input type="checkbox"/> 分からない
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	--------------------------------

◆終末期に希望する医療（各医療ケアの内容は次ページ以降をご覧ください）

1	心肺蘇生	<input type="checkbox"/> 希望する	<input type="checkbox"/> 希望しない	<input type="checkbox"/> 分からない
2	人工呼吸器の装着	<input type="checkbox"/> 希望する	<input type="checkbox"/> 希望しない	<input type="checkbox"/> 分からない
3	緩和ケア (鎮痛剤・鎮静剤の使用)	<input type="checkbox"/> 希望する	<input type="checkbox"/> 希望しない	<input type="checkbox"/> 分からない
4	(経管栄養) 胃ろう	<input type="checkbox"/> 希望する	<input type="checkbox"/> 希望しない	<input type="checkbox"/> 分からない
5	(経管栄養) 鼻チューブ	<input type="checkbox"/> 希望する	<input type="checkbox"/> 希望しない	<input type="checkbox"/> 分からない
6	点滴による栄養補給	<input type="checkbox"/> 希望する	<input type="checkbox"/> 希望しない	<input type="checkbox"/> 分からない
7	輸血の使用	<input type="checkbox"/> 希望する	<input type="checkbox"/> 希望しない	<input type="checkbox"/> 分からない
8	人工透析	<input type="checkbox"/> 希望する	<input type="checkbox"/> 希望しない	<input type="checkbox"/> 分からない

◆終末期にどのように過ごしたいですか。また、医療方針についてどのように考えていますか。ご自由にご記載ください。

◆自分の意思を伝えられない場合、代理で医療の方針を判断してもらいたい人

いる いない

氏名	続柄	連絡先	リビングウィルの内容
			<input type="checkbox"/> 伝えている <input type="checkbox"/> 伝えていない
			<input type="checkbox"/> 伝えている <input type="checkbox"/> 伝えていない
			<input type="checkbox"/> 伝えている <input type="checkbox"/> 伝えていない
			<input type="checkbox"/> 伝えている <input type="checkbox"/> 伝えていない

※リビングウィルを伝えていない場合は伝えておきましょう。

記載日	年 月 日
氏名(自署)	

医療ケアに関する説明

①心肺蘇生

突然、心肺停止となった場合に心拍及び自発呼吸の再開を期待して行う処置のことです。一般に心肺停止から3分以内に救命措置が行われれば75%が救命され、脳障害も避けられる可能性があります。8分以上経過した場合には救命の可能性は極めて低くなります。

・心臓マッサージ

胸部を圧迫することにより、心臓から全身に血液を送りこむための手法です。この方法に加え除細動器などを用いて電気ショックを行い、心拍を再開させることもあります。



・人工呼吸

自発呼吸が停止している場合は、外部から肺に空気を送り込む必要があります。手動のバックとマスクを用いて行いますが、気管挿管（口や鼻から気管の中に直接管を入れる処置）を行い、バックと連結することもあります。



②人工呼吸器の装着

自分の力による呼吸が不十分な場合、機械で呼吸を補助する目的で行います。自力で呼吸が可能になるか、亡くなるまでは機械を外すことはできません。

また、人工呼吸器での管理が長期になる場合には、喉から気管に直接穴をあけて管を挿入するための「気管切開」が必要となります。



③緩和ケア（鎮痛剤・鎮静剤の使用）

治癒することが困難な重い病気になってしまったとき、体や気持ちのつらさを和らげるために行う医療ケアのことです。

終末期のがんに対する鎮痛剤（医療用麻薬など）や鎮静剤の投与がよく知られています。



④・⑤経管栄養

食べ物を飲み込めない、口から必要な栄養や水分を取れない場合に行う手段です。長期間の栄養補給や投薬が可能となります。

④胃ろう

胃カメラまたは手術で腹壁から胃に直接チューブを入れる方法です。半年に1回程度の交換は必要ですが、体の違和感はありません。



⑤鼻チューブ

鼻から胃にチューブを入れる方法です。簡便ですが頻繁に交換が必要であり、チューブが鼻やのどを通るので、違和感が強いです。



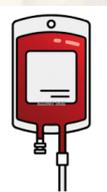
⑥点滴による栄養補給

末梢静脈から細い管（留置針）を挿入し水分・薬剤を送ったり、首や鎖骨の下の太い静脈（中心静脈）から管（カテーテル）を挿入し栄養を送る方法があります。中心静脈の場合、チューブを介した感染症のリスクがあります。



⑦輸血

疾病や事故により、血液全部あるいは一部が極端に減少した場合にその成分を補うために行います。



⑧人工透析

腎臓が機能しなくなったときに、腎臓の代わりに機械で血液をろ過し、血液中の老廃物を取り除くために行います。

